

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 29 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2013 年 3 月 29 日 (金) 13:30~16:00
2. 場 所 (社) 原子力安全推進協会 第 3,4 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 渡邊 (副主査), 三山 (幹事), 広木, 矢野, 下家, 遊佐, 望月
新立 (猿渡代理), 内藤 (臼井代理), 上坂, 萬年, 大城戸, 木谷,
山田, 新井, 皆川, 一森, 松本 (松浦代理), 中野, (19 名)
(欠席委員) 鈴木 (主査), 大木, 橘高 (3 名)
(常時参加者) 鈴木, 田畑, 本田, 中川
(傍聴者) 檜田, 武田, 松藤, 伊藤

4. 配布資料

資料P14SC-29-1	第28回PLM分科会議事録案
P14SC-29-2	人事
P14SC-29-3	本格改定の課題整理表
P14SC-29-4	中間報告コメント対応案
P14SC-29-5	PLM実施基準の改定案
P14SC-29-6	IAEA I-GALL知見に係るPLM基準への反映について
P14SC-29-7	追補4相当の経年劣化メカニズムまとめ表の取扱い
P14SC-29-8	PLM実施基準本格改定のスケジュール

参考資料

- | | |
|---------------|----------------------|
| P14SC-29-参考-1 | 第21回システム安全専門部会議事メモ |
| P14SC-29-参考-2 | 第52回標準委員会議事メモ |
| P14SC-29-参考-3 | 運転認可延長認可制度に関する検討について |

5. 議事

会議に先立ち、出席委員は19名で、定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-29-1)

幹事より、第28回PLM分科会議事録(案)が紹介され、承認された。

(2) 人事 (P14SC-28-2)

標準委員長預かりとなっていた旧原子力安全・保安院委員が2013年3月8日付で退任となったことが報告された。

(3) PLM実施基準の改定案 (P14SC-29-5)

PLM実施基準の改定案について以下の変更を加えたことが報告された。

・4.1 対象機器

深層防護の観点について、具体的な記載の検討が必要とのコメントを受け、解説5を修正し、法律条項の内容を記載した。専門部会コメントより、「」を付けた。

- 解説5だけを読むと安全機能を有するすべての構築物、系統及び機器を対象とすることが分かりにくい→解説5を修正する。
- 運転初期からの経年劣化管理の書き方では、運転開始後追加した設備の恒設機器が読めないのではないか？→補足を解説に記載する。

・6.3.3.2 健全性評価

評価対象期間の基本的な設定を60年に戻し、但し書きで保守性を考慮してより短い評価期間としてもよいとした。解説に原子力規制委員会資料「運転期間延長認可制度に関する検討について」を呼び込み、60年の仮定の説明をした。

- 解説9「満了『までに』」より、条文案に合わせ「満了『に際し』」とした方がよいのではないか
- 引用元と同じ表現にする必要があるのではないか。一つの「」で区切られているが、引用元では連続した文章ではないものがあるため、分ける必要があるのではないか。→法律条文を読み込むことを検討する。

・6.3.3 経年劣化事象に対する技術評価

前回分科会での議論を踏まえ、長期停止中プラントの技術評価の記載の前に、通常の技術評価に関する記載を追加した。6.3.4耐震安全性評価にも長期停止中プラントに関する記載を追加した。

- 耐震安全性評価の項に技術評価と記載があるが、耐震安全性評価にした方がよいのでは。それに伴い、重複する箇所の表現を評価に変更した方がよいのでは。6.3.3も技術評価が重複しているので、後ろ側は評価に変えた方がよいのでは。→修正する。

- ・高経年化対策検討の再評価

再評価を反映する先の明確化を行った。

- 8.1には6事象が記載されているが、意図的に行ったのか。→8事象に変更する。

- ・附属書C.6 フレッシング疲労

解説図C.6.2の凡例に修正を加え、メーカー試験データが公開されたため、出典を記載した。

- ・附属書C.2 照射脆化

解説C-2-3にJEAC4201改定の状況を記載した。

- 現在書面投票中であるため、記載の変更が必要ではないか。いつ時点の状況なのか記載したほうがよいのではないかと記載を修正、追加する。
- 原子力安全・保安院の前に旧を付けたほうがよいのでは。→修正する。

- ・附属書A 経年劣化メカニズムまとめ表

- 高経年化技術評価不要の文言について、まとめ表は想定される経年劣化事象を記載しているが、まとめ表だけを見ると技術評価不要なので想定しなくてもよいと思える→表現を修正する。
- 可能性がないという表現だと想定しなくてもよいように思われるため、可能性は極めて小さい等にしたほうがよいのでは。→解説等で今までの技術評価で可能性がないとなっていた等の記載をする。
- A.6.5 記号のa) 高経年化技術評価不要の○は丸数字であることが分かり難い→分かりやすい表現に修正する。

(4) IGALL知見に係るPLM基準への反映について (P14SC-29-6)

IGALLの反映検討状況について、附属書Eへの取り込みを検討していることが報告された。

また、まとめ表への反映方法等の検討が必要であることが報告され、まとめ表については主要な部位で抜けがないか確認する方針となった。8事象についてはAMP、TLAAから反映すべき事項の抽出を行うこととなった。さらに、IGALL反映のシナリオを作った方が今後の説明の観点でよいとの意見が出た。

(5) 追補4相当の経年劣化メカニズムまとめ表の取扱い (P14SC-29-7)

現状では学会のホームページ上では議事録のみが載っており、配布資料は学会に行けばコピーが貰える。議事録に経年劣化メカニズムまとめ表を添付できるかどうか確認し、容量等の観点で無理であれば閲覧可能な方法を学会と調整することとなった。

7. 今後のスケジュール等

5月の専門部会までに改定案とIGALL反映検討結果について審議し、6月に本報告できるように進める。

次回分科会は5月9日もしくは10日に予定する。

次回分科会までに、規格案の誤記チェックを各委員に依頼する。

以 上